大学院獣医学研究科予防獣医学特殊講義（担当 及川 教授）および公開特別授業　ご案内

開講日時：　2019 年 5 月 30 日（木曜）18：00～19:30（目安です）

開講場所：　酪農学園大学研修館（国道 12 号から附属動物医療センターに向かう道の途中にあります）

題名：　日本における愛玩鳥類医療の現状と問題点

講演者：　野口 尋代 先生 ［さっぽろ小鳥のクリニック（院長）、鳥類臨床研究会（理事）、野生動物救護リハビリテーター協会(理事)]

野口先生は岩手大学卒業後、鳥類専門医を目指すため国内の鳥類専門医院で研修を積まれた後、道内では唯一の鳥類専門動物病院「さっぽろ小鳥のクリニック」院長として日々臨床現場で活躍している（下記、北海道新聞 2017 年 1 月 13 日朝刊参照）。その傍ら鳥類臨床を目指す数多学部生・院生をインターとして受け容れ、また、鳥類臨床研究会として学術的にも熱心で、積極的に後進の育成にも関与している。さらに、同クリニックでは本学獣医保健看護学類出身の動物看護師が 1 名所属し、彼女は野口先生の指導の下、日本では数少ないペットバードナースとしての優れた人材に育ちつつある。日本の獣医学では鳥類医療に関しての教育・研究が立ち遅れている。今回は野口先生が経験された飼鳥の感染症を含む疾病について概要紹介をされ、有効な予防手段について講じて頂く。この講義は博士課程の院生授業ではあるが、鳥類臨床（野生種や動物園飼育種含む）に興味を有する学部生・一般にも公開することとした。奮ってご参加頂きたい。

㊤道内でも珍しい小鳥の専門病院「さっぽろ小鳥のクリニック」。診察室では小さな命を守るための検査や診断が行われる
㊦「飼い主にとって鳥は家族」と話す院長の野口尋代さん。自身もオカメインコとキンカチョウ計３羽を飼う
（いずれも栗本充則撮影）

鳥に魅せられ ⑤

小さな「家族」の命守る

数少ない専門医

170113

札幌市豊平区の住宅街にある「さっぽろ小鳥のクリニック」は、道内では珍しい小鳥の専門病院として知られる。

「小鳥は体が小さいので、ささいなミスも命取りになりかねない」。2年ほど前から院長を務める野口尋代さん(43)の言葉に、命を背負っている責任感がにじむ。

昨年12月中旬の午後。野口さんは診察室でセキセイインコの頭を優しくなでながら、触診した。飼い主にエックス線画像を見せながら下腹部に腫瘍の疑いがあることを告げ、手術や投薬などの治療方法を説明した。

飼い主の40代女性（札幌市白石区）は「いくら本を読んでも、どこの具合が悪いのか分からなかった。しっかり説明してもらえた」と納得した表情で話した。

野口さんは愛知県出身で、岩手大農学部獣医学科に進んだ。大学時代にバードウオッチングを始め「時間を忘れるほど、野鳥にのめり込んだ」と振り返る。

卒業後は道外の動物病院で助手をしながら、アルバイトで生計を立てていた。だが、激務で体調を崩し、2年ほど別の仕事に就いた。2006年、さっぽろ小鳥のクリニックを開業した大学時代の先輩に誘われ、一緒に獣医師として再び働くことを決意した。

診察するのはオウム類、文鳥などさまざま。検査では長さ数㌢の器具を、鳥の細い食道に入れる。肥満や食事制限は1㌘以下の単位で調整する。「飼い主にとって鳥は家族。来院してくれたからには、診てもらってよかったと思ってもらいたい」

家族の部合で札幌を離れた先輩に代わり、15年4月にクリニックを引き継いだ。稚内から愛鳥を連れてくる人もいるだけに「無責任せない」と思った。

今の夢は「鳥の専門医を増やすこと」。「鳥という『家族』の健康を守ってくれるため、一人でも多く自分と志を同じくする獣医師を育てたい」

（田口谷優子）

さっぽろ小鳥のクリニック
札幌市豊平区月寒東１の16。獣医師３人態勢で、１日平均で30～40羽を診る。診療時間は午前９時～午後５時。休診日は木曜、日曜と祝日。電話予約制。予約と問い合わせは☎011・855・9331へ。

連絡先　酪農学園大学　獣医学群/
兼　同大学大学院　獣医学研究科　博士課程
教授　浅川満彦　askam@rakuno.ac.jp